

- 一、勤労を尊び、奉仕の精神で励みます。
- 一、スポーツに親しみ、健康で明るいくらしを築きます。
- 一、生涯を通して学び、うるおいのある生活を求めます。
- 一、きまりを守り、温かい心のふれあいを広げます。
- 一、伝統と自然を大切にし、住みよいまちをつくります。

昭和61年

№420

12/5

山口県吉敷郡阿知須町役場
発行 阿知須町
電話 4111(番代) 754-12

広報あじす 毎月5日 発行
お知らせ版 毎月20日 発行



話題・家族
見たり 10
聞いたり

▲「来年が楽しみ」と話す亀村さん夫婦

夫婦で吟じれば 老後もまた楽し

亀村さん夫婦(浜)

長寿時代に入り、本町でも夫婦が揃って長生きしている世帯が増えている。その中で夫婦で詩吟を楽しんでいるのが亀村美代次さん(八、浜)・マス子さん(七)の二人。

詩吟を始めたのは「主人も私も歴史が好きで、歴史を漢詩で吟じてみたい」と思い自己流で二年ぐらい練習していった。きちんと習ってみたいと思っていたら、主人のいとこで東京で岳風流の詩吟を教えていた先生が、仕事を退職して楠町に住むことになったので、娘(大浜孝子さんⅡ浜区)と三人で弟子入りしました。二十年前のことです。そのときに山口県に防長吟友会という会が出来、阿知須支部も出来ました。

習い始めた頃は「お互いに批評し合ったりして、よく練習しました」と美代次さん。練習は「月二回、日曜日の

夜七時から二時間程度。会場はうちの二階です。私たちは他に趣味はないけど、夫婦が同じ趣味なので、話しがよく合って楽しいですよ。それに詩吟は腹の底から声を出すので体にもいいと思います」とマス子さん。これが長寿の秘訣なのかもしれません。

「年をとって始めたので、漢詩を覚えるのが大変でした。二人とも師範の免状をいただいていたのですが、最近では声が出にくくなり、詩も深く研究していなければなりませんので、人に教えることはしませんが」と美代次さん。号は美代次さんが「玉風」、マス子さんが「薫風」。

「若い頃(主人は国鉄マン)はいろいろと苦労しましたが、来年は結婚して満六十年、主人が米寿、私が傘寿。四人の子どもと十一人の孫が祝ってくれるというので、その時に自作の詩を吟じるのが現在の私たちの夢です」。

子ども三人を教員に育てた美代次さん、マス子さん夫婦にとって来年はまた楽しみが重なる年となりそうです。

◇「話題家族、見たり聞いたり」のシリーズは今回で終ります。登場していただきたい家族もまだありますが、一区切りさせていただきます。

都市計画税について

阿知須町の都市計画税に關して去る七月十七日、町内の五氏から阿知須町監査委員（伊藤繁・長久清忠の二氏）に對して「阿知須町職員措置請求書」が提出されました。

この請求の要旨、監査結果、町長からのお願ひなど全文をまとめてご紹介します。（提出者、受理者の住所・職業・氏名等は省略）

〔請求者から監査委員へ〕

阿知須町職員措置請求書

吉敷郡阿知須町長に關する措置請求の要旨

一、請求の要旨
阿知須町においては、目的税である都市計画税を徴収、税率は最高税率の百分の〇・三が課税され、昭和六十年で六千万円を超える税収となっている。

ところで、都市計画税は目的税であるので、その目的以外には使用することは出来ない。このことは地方税法第七〇二条に定める通りである。

同条項においては「市町村は都市計画法に基づいて行う都市計画事業又は土地地区画整理法に基づいて行う、土地地区画整理事業に要する事業に充てるため、当該市町村の区域で都市計画法第五条の規定により都市計画区域として指定さ

れたもののうち、市街化区域内に所在する土地及び家屋に對し、その価格を課税標準として、当該土地又は家屋の所有者に都市計画税を課するこが出来る」と定めている。

ところで、本町においては、昭和五十九年、六十年以降においても、都市計画事業の承認決定はない。となれば、都市計画税を全廃するか、税率を下げるかを選択すべきである。都市計画税を一般財源として使用したり、財政調整基金の財源に充当することは、違法、不当な行政運営といえる。

すみやかに是正措置を取るとともに、過去（五十九年、六十年）において、不当違法に徴収し、他目的に使用された都市計画税は、町民に返還すべきである。

右地方自治法二百四十二条第一項の規定により別紙事実証明書を添え必要な措置を請求します。

昭和六十一年七月十七日

〔監査委員から請求者へ〕

阿知須町長に對する都市計画税に關する措置請求について

昭和六十一年七月十七日付けをもつて提出された右記の措置請求により監査を実施した結果を地方自治法第二百四

十二条第三項の規定により左記のとおり通知する。

一、請求の受理

本請求は所要の法的要件を具備しているものと認めこれを受付け、同日付けで受理した。

二、監査の実施

監査に當つては、関係書類の調査確認するほか関係者よりその内容について聴取した。また、請求人に対しては昭和六十一年七月二十九日陳述の機会を与えた。

なお、請求人が提出した措置請求内容を次のように解した。

①監査対象事項

第一点 「昭和五十九年度以降においても都市計画の認定事業がないので都市計画税を全廃するか税率を下げよ。」という主張。

第二点 「都市計画税、すなわち目的税を一般財源として使用したり、財政調整基金の財源に充当することは違法、不当な行政運営といえるので速やかに是正措置をとれ。」という主張。

第三点 「昭和五十九、六十年において違法、不当に徴収し、他目的に使用された都市計画税は町民に返還すべきである。」という主張。

②監査に當り事情を聴取した者

助 役 藏富士和男
総務課長 山田 満雄
三、監査の結果

①第一点、第三点について地方自治法第二百四十二条第一項の規定によれば監査請求事項は

支出
①違法または不当な公金の支出

②違法または不当な財産の取得、管理若しくは処分
③違法または不当な契約若しくは履行、債務、その他の義務の負担

④違法または不当な公金の賦課徴収若しくは財産の管理を怠る 事実上限定される。したがって、地方自治法第二百四十二条第一項では税の賦課徴収は対象事項外であり第一点、第三点についてはこれを却下する。

②第二点について昭和五十九年度、六十年の都市計画税にかかる収入支出状況を調査したところ次のとおりであった。

五十九年度
収入 五、五、〇〇〇
支出 三、五、〇〇〇
残額 二、〇〇〇、〇〇〇
六十年
収入 六、五、〇〇〇
支出 四、五、〇〇〇
残額 二、〇〇〇、〇〇〇

支出については五十九年度は補助対象事業費、地方債償還費に、また六十年は地方債償還費に、不足については昭和五十九年度留保分があられた目的外の支出はされていない。

次に残額については留保され

山口県商工会連合会 発行
「地域経済活性化に
向けての提言」から (上)

あじす

いまれて未来

前号は吉南青年会議所の十周年記念事業誌に掲載された「ダフルトライアングル構想」の中で阿知須町についての記述を紹介しました。今回はもう一つ、山口県商工会連合会が「地域経済活性化に向けての提言」として阿知須町についての記述しているのをとりあげてみましょう。

この提言は同連合会が昭和六十年小規模事業対策特別事業として県内五十六市町村のうち商工会をもっている四十三地区について現況と課題をとらえ、地域活性化にむけての提言を一冊の本にまとめたものです。本町については山口大学経済学部の一部教授の執筆です。

○ 現況と特色
阿知須町は宇部市や小郡町・山口市に隣接して、就職機会をそれらの市町に依存し、家業として農業や水産業を営んでいるという家計のあり方をとり、人口一人当たり個人所得水準が県内で最高グループに入っていたために、町内における商業はあまり発展しなかった。つまり、都市産業においては阿知須町が存在理由はわりと希薄であったのである。

第二次産業・第三次産業の事業所は三百三十五、民間事業所は三百四十余りであり、その七〇％以上が従業員四人以下の事業所である。事業所は増えつつあり、その限りでは町内商業・サービス業の果たす役割が増強しつつあるということができよう。

業種別にみれば、建設五十八、製造業二十二、卸・小売業百七十、サービス業八十五であり、製造業の少なさが目立っている。平均をとると一事業所当たり出荷額は県平均の六〇％たらず、従業員一人当たり出荷額は県平均の四〇％強というところである。それは、一工場を除いて極めて小さい企業からなっているためである。

建設業は一企業当たり総生産が県平均の八〇％たらずと低い水準にあるが、今後の地域の変化のなかでどれだけ水準を高めることができるのかが目玉となる。

小売業については小売吸引力の低下が進行するなかで、新しい商業地の形成が意図され、地元スーパーの出現などによって吸引力の向上が実現したのであるが、最近になって再び吸引力の低下が現われようとしている。優れた商店も少なからず存在しているが全体としては水準が低い。企業の確立を目指す人たちが、現在新しい商業地を拡充しようとしているが、このことは阿知須町の積極的な存在理由を強めていくうえでの重要なポイントをなしている。

(次号に続く)

れており一般財源として使用されていなかった。したがって請求に理由はないと認めこれを棄却する。

四、町長への要望について
町長に対して別添のとおり要望したので申し添える。

〔監査委員から町長へ〕

阿知須町長に関する
措置請求書に対する
要望について

昭和六十一年七月十七日付
けで受理した阿知須町長に關
する措置請求書により監査を
した結果は、別紙のとおり請
求に理由なしとすることと意
見の一致をみた。

しかしながら、都市計画税
の余剰額の処理方法について
は、特別会計等を設置し、収
支を明確にすることを強く要
望する。

〔町長からみなさまへ〕

都市計画税に
ついてお願い

昭和六十一年七月十七日付
けで提出された措置請求につ
いては九月十日付で回答
(別添)が出されました。そ
して、三十日以内に地方自治
法第二百四十二条の二による
訴訟が提起されなかったこと
により、一応の終結をみました。

即ち、都市計画税が不法、
不当に使われていなかったこ

とが証明されたわけです。そ
の際、要望されました余剰金
処理の方法については、今後
別基金を創設して再び疑惑の
生じないようにする所存です。
ところで、さきの議会で、

一議員からかなり執拗にこの
問題がとりあげられましたが
以上のような経緯から、それ
は地方自治法第二百四十二条
第一項に該当しないとして却
下された件、即ち、事業をし
ないで税をとるのは不法不当
だということに重点を置いて
説明します。

当町は昭和三十一年に全域
を都市計画区域に指定され、
四十一年から都市計画税を課
税しています。その間、用途
地域、都市計画街路、都市計
画公園、駅前広場、公共下水
道基本計画、緑のマスタープ
ランなど次々に計画決定し所
定の手続きをしています。そ
して、駅通り線をはじめとし
て多くの事業をしてきました
が、最近、事情が若干変って
きました。

それは、テクノポリス計画
と干拓計画、即ち、海浜と奥
地両方に重点ができたために
その間の道路をはじめ、従来
の計画でいかどうか再検討
が必要になり、その間、県の
事業認定が保留になったわけ
であります。事業認定は保留
されていますが、計画は生き
ているわけで、その間の徴税
は必ずしも不法不当に当らな
いと思っているわけでござい

ます。いずれ、両計画が確定
した暁には待望の事業がはじ
まるわけであります。

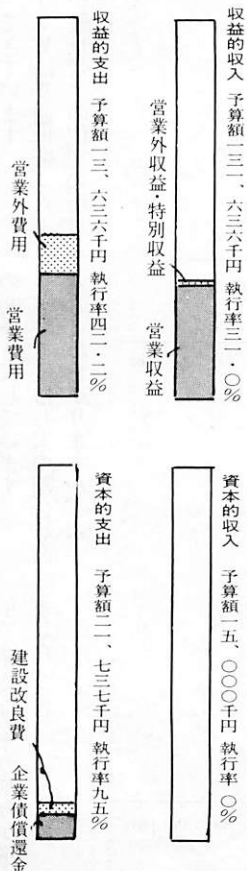
私としましては、今まで発
行した都市計画のための町債
(長期借入金)をできるだけ
繰上げ償還しておき、いざと
いうときの資金づくりを容易
にしておくことと、前述の計
画変更と比較的影響の少ない
公園、下水道の整備を少し
づつ実施していこうかと思
いま、来年度予算に組み込む
準備をしているところであり
ます。そのため、課税も従前
どおり行いたいと思っています。

以上、疑問にお答えしまし
たが、計画が確定して事業が
はじまりますと、国・県から
の補助金は当然つきませんが、
地元としても相当の資金調達
が必要になります。このこと
は町の大変革、大発展を企画
した大事業でありますので、
町民全体のご理解とご協力が
なければ完遂は到底無理であ
ります。

どうか従来の行きがかりを
捨て、お互に手を取り合って
取り組んで行きたいと思いま
すので絶大なご支援をお願い
いたします。

(町長・三好正之)

水道事業会計



一般会計・特別会計

1. 歳入歳出予算の執行状況(自昭和61年4月1日至昭和61年9月30日) (単位:千円)

一 般 会 計			
歳入予算額	1,612,029	歳出予算額	1,612,029
収入済額	714,156 (44.3)	支出済額	757,912 (47.0)

国民健康保険事業特別会計

歳入予算額	363,257	歳出予算額	363,257
収入済額	182,420 (50.2)	支出済額	182,420 (50.2)

老人保険特別会計

歳入予算額	600,468	歳出予算額	600,468
収入済額	272,271 (45.3)	支出済額	268,018 (44.6)

交通災害共済事業特別会計

歳入予算額	6,430	歳出予算額	6,430
収入済額	7,993 (124.3)	支出済額	5,277 (82.1)

同和地区住宅資金等貸付事業特別会計

歳入予算額	795	歳出予算額	795
収入済額	1,103 (138.7)	支出済額	395 (49.7)

同和福祉援護資金貸付事業特別会計

歳入予算額	4	歳出予算額	4
収入済額	1 (25.0)	支出済額	0 (0)

2. 町債及び一時借入金の現在高(昭和61年9月30日) (単位:千円)

(1) 町 債	1,324,722	(2) 一時借入金	260,000
---------	-----------	-----------	---------

3. 町有財産の概況(昭和61年9月30日現在)

(1) 土 地	843,254.79㎡	(2) 建 物	22,541.06㎡	(3) 町一般基本金	296,254千円
(4) 電話債券	410千円	(5) 出資金	111,014千円		

予算執行状況を公表

61年度上半期

地方自治法および町条例に
より、昭和六十一年上半期の
予算執行状況を公表します。

役場は信

企画課の巻

昭和六十年十月一日現在で行われた「昭和六十年国勢調査」による第一次基本集計結果の報告書が届きました。

第一次基本集計では、人口および世帯数の確定結果や世帯・住居に関する基本的な事項などを集計しています。

そのうち本町に關係するものを、過去の国勢調査とグラフで比較しながら紹介しましょう。

なお、本町の人口の確定値は八千四百七人（男性三千八百六十六人、四千五百四十一人）世帯数の確定値は二千三百二十四世帯です。

用語の解説

年齢 年齢は六十年九月三十日現在の満年齢。

なお、六十年十月一日午前零時に生まれた人は〇歳としている。

普通世帯 五十五年国勢調査以前では「住居と生計を共にしている人の集まり、または一戸を構えて住んでいる単身者」を普通世帯として定義した。

一般世帯 六十年国勢調査では「普通世帯」に「間貸り、下宿などの単身者」と「会社などの独身寮の単身者」を加えたものを一般世帯として定義した。

グラフの說明
グラフIからI-5までは、人口のピラミッドです。昭和三十年はピラミッドに近い形ですが、四十年から次第に釣鐘形に近くなっています。

グラフIIは年齢三区分による人口比です。ここでもお年寄りが急増していることがわかります。

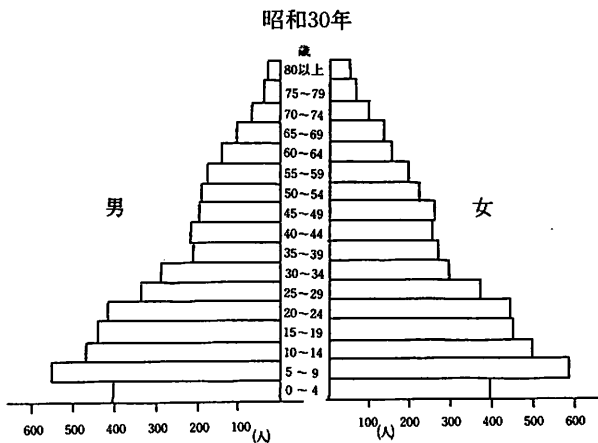
六十年は特に女性の長寿と二十歳から三十四歳までの青壮年層が少ないことが目立っています。

グラフIIIは一世帯当りの人員です。核家族化が進んでいることを示しています。

グラフIVは普通世帯（六十年は一般世帯）に占める世帯人員数を表しています。一・二人世帯は急増し、三・四人世帯は漸増しています。五・六人世帯はほぼ横ばい状態で、七人以上の世帯は次第に少なくなっています。

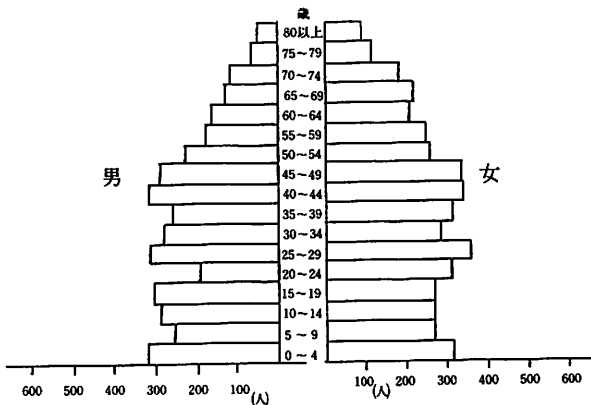
グラフI-1

男女別・年齢階層別の人口（人口のピラミッド）



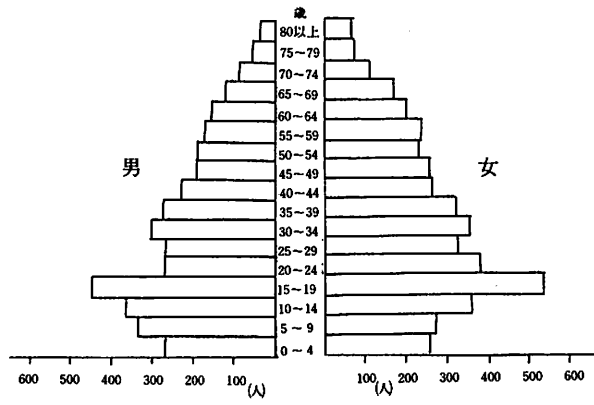
グラフI-3

昭和50年



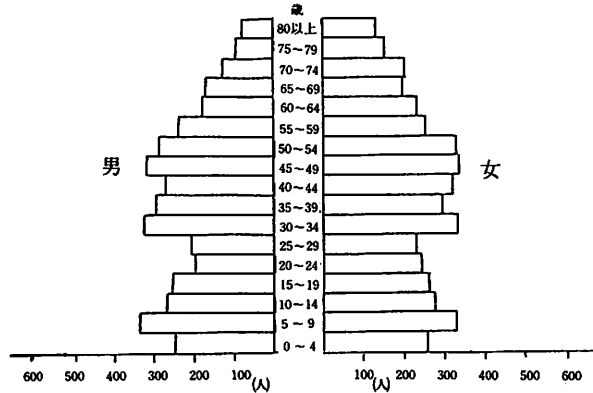
グラフI-2

昭和40年



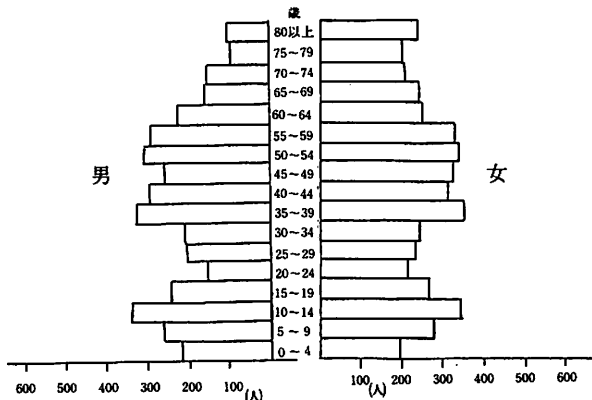
グラフI-4

昭和55年



グラフI-5

昭和60年



グラフVは普通世帯（六十一年は一般世帯）の住宅の所有

の關係を表しています。本町では持ち家の割合が高いことがわかりますが、六十

年には民営借家の割合が増えました。

新しい民生委員さんが次の
とおり決まりました。(敬称略)
縄中勝人(小東)須上義治(前
山)河村日出男(南祝)伊藤
清(東)岡田歳一(縄北)中

新しい民生委員さん (十二月一日付)

繁博(中村)工藤アツ子(寺
河内)西村誠一(砂二)上村
定雄(砂三)江本民江(飛石)
田中ハナコ(岩西)井上ミサ
ホ(旦北)金子靖恵(赤迫)
松本武(井関)西山和代(源
河)大田徳久(向井関)
なお、任期は三年。

社会事業や地方自治などで
功労のあった人に贈られ、県
では最も名誉ある賞「県選奨」
では昭和二十七年から町

釈野さん県選奨、大沢さんボランティア表彰 永年の青少年育成活動の功績をたたえ

内の子ども会を育成、子ども
会の指導役ともいえるジュニ
ア・リーダーを養成、町子連
の結成に献身的に尽力、その
卓越した実行力で県子連でも
活躍するなど、永年にわたる
青少年育成活動が高く評価さ
れたもの。

青少年育成で 意見を交換

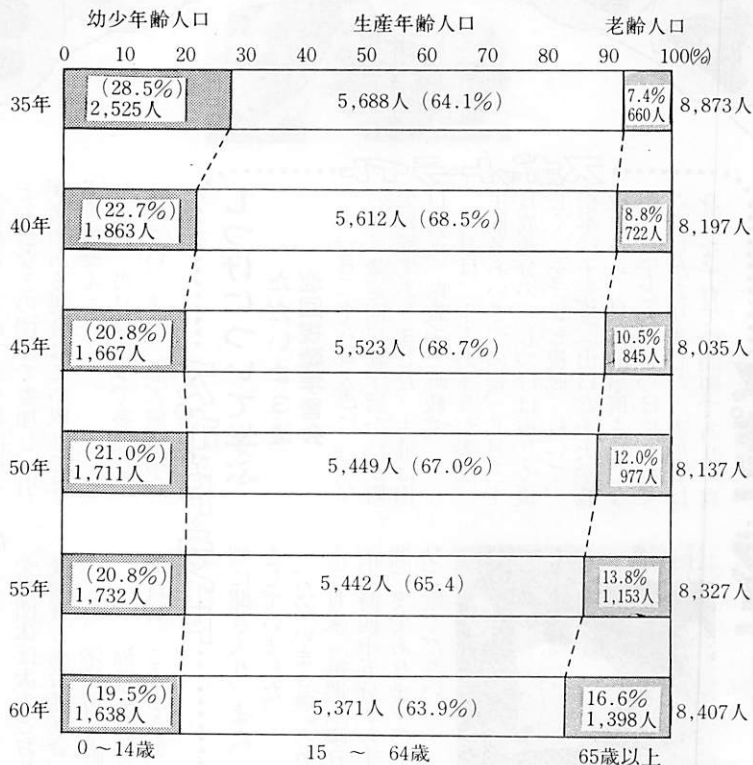
「青少年保護育成懇談会」
が十一月五日町公民館で開か
れました。これは、十一月が
青少年健全育成強調月間にあ
たるために、開かれたもの。
当日は、県からキャラバン
隊(隊員十人)が来町、町内
からも三十五人の青少年育成
団体の代表者が出席しました。

最初にキャラバン
隊長の佐藤武男・青
少年育成県民会議会
長が県知事のメッセ
ージを三好町長に手
渡しました。
次に工藤教育長が、
町の青少年問題の現
状について説明。出
席者も日常の活動の
問題点や悩みを発表。
「明日を担う青少年」
の健全育成について
真剣な話し合いが行
われました。
(写真は青少年育成
会話し合った懇談会)



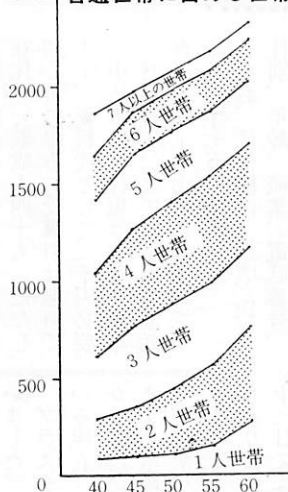
グラフⅡ

年 齢 三 区 分 人 口



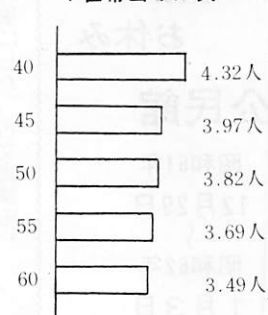
グラフⅣ

普通世帯に占める世帯人員



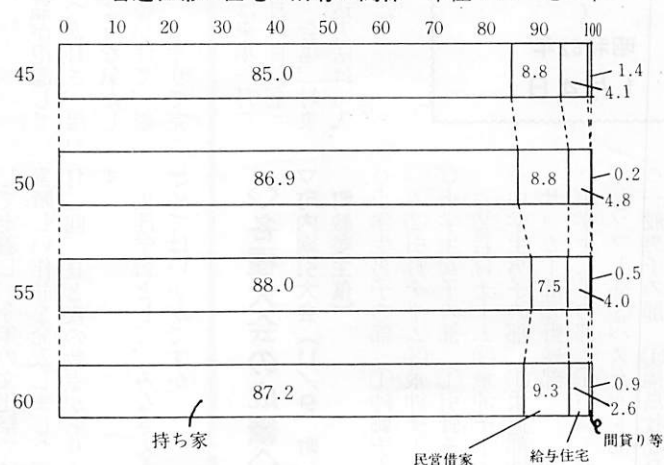
グラフⅢ

1世帯当り人員



グラフⅤ

普通世帯の住宅の所有の関係 単位：パーセント



心民館だより



◀ 一対二の攻防
(近郷少年サッカー大会)

元旦に集う会
来年一月一日

岡山霊廟
前広場で

は、とりやめることがあります。

新年を迎えるにあたり、初日の御来迎と先祖の霊を拜し、町勢の発展と各位の健康及び活躍を祈念する。

優秀団体を表彰
町花いっぱい運動で

町公民館では、昭和六十二年元旦に集う会を来年一月一日午前七時から、岡山霊廟前広場で行います。当日の日の出は午前七時二十一分の予定。どんなでも参加できますが、小学生、児童の参加は父兄同伴のこと。ただし、スポーツ少年団や子ども会などの団体で参加し、引率者がある場合はこの限りではありません。

なお、当日は徒歩で参加してください。また、悪天候の場合

しつけについて学ぶ
ただいま3歳

巡回視聴学習会

十一月二十八日(金)に「ただいま3歳巡回視聴学習会」が町公民館でありました。主催は山口放送、県教委と町教委。

当日は二十人あまりが参加。主催者あいさつの後、八月三十日放送分の「しつけは厳しく優しく」をテレビ視聴。続いて、松本依子先生(山口女子大学教授)から、具体的事例を出しながら、子どものしつけについての話がありました。参加者は身近な子育ての問題であり、真

スポーツ・ライト



スポーツ・ライト



ども会(以上教育長表彰)

「古文書講座」を開設

申込みは県生涯教育センターへ
県教育委員会と県生涯教育センターでは、来年一月二十日(火)から二月十七日(火)まで毎週火曜日、県生涯教育センター(県教育会館三階)で「古文書入門講座」を開きます。対象は県内に住む一般成人四十人(ただし、初心者に限る)。受講料は無料ですが、資料代として二千円必要。申込みは、往復はがきで来年一月五日(月)までに、県生涯教育センター(山口県大手町二一七八、〒七五三)へ。

なお、往信欄に「住所、氏名、性別、年齢、職業、電話番号、講座名」を、返信欄に「郵便番号、住所、氏名」を明記のこと。また、古文書の知識を有する人を対象にした「古文書講座」

年末・年始のお休み

町公民館

昭和61年
12月29日
昭和62年
1月3日

勤労者体育センター

昭和61年
12月28日
昭和62年
1月4日

ペリコロ

テーマは
生活の中の木彫

矢田部 尚子(南祝)

ふとしたきっかけで木彫を始めて、もう十年以上になりました。小学生の頃、版画を作るのに思うように彫れず、途中で投げ出し、作品が完成したためしなかった私にとって、木彫は縁遠いものと思っていました。しかし、始めてみると、彫刻刀の種類も多く、切れ味も全然違いました。プラスチック製品が氾濫している現在、木の持つ素朴さ、温かさは心の故郷のような気がします。木彫は手間隙かけて、彫り、色塗り、磨き、上塗りで完



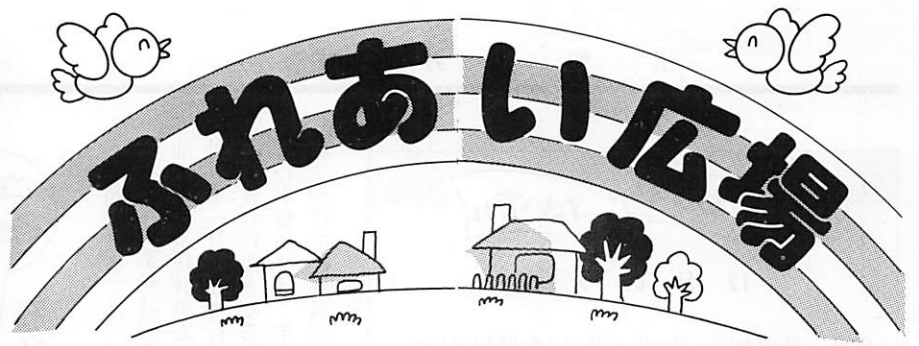
成させます。その行程一つひとつにとっても神経を使いますが、完成した時の喜びや満足感は苦労した程大きくなります。生活の中の木彫をテーマにしており、作品の数々には思い出が沢山、遠くになり近くになりして眺め、評価し、それが次の作品の意欲につながります。
昭和五十八年八月に発足した

木彫教室もようやくグループとして定着し、今年の文化祭では素晴らしい作品を発表しました。月二回、昼と夜の教室があります。生涯学習として、みなさんも始めてはいかがですか。

◇ 各種大会の成績 ◇

▽ 町内綱引大会(11/9、町・町教委主催)

- 小学生男子の部 ①砂郷チーム ②引野チーム ③飛沖チーム
- 小学生女子の部 ①引野チーム ②岩倉チーム ③飛沖チーム
- 中学生男子の部 ①柔道部 ②サッカー部 ③野球部
- 中学生女子の部 ①バレー部 ②ソフト部 ③バスケット部
- 一般男子の部 ①福島牧場Bチーム ②浜表チーム ③福島牧場Aチーム



▶もう少しだ、ガンバレ、
(町内綱引大会)



井小の環境整備を担当

青木 則 篤さん(三)

旦北

井関小学校がこのたび『花いっぱい運動』で町長表彰優秀賞に輝いた。同校の環境整備を担当している青木則篤教諭をたずねました。

五十九年にも教育長表彰優良賞を受けておられますが、今回の町長表彰の受賞おめでとうございます。

「井小に来て四年になりますが、環境整備を担当したのは今年からです。今回の表彰は今まで全職員、全校生徒一人ひとりが緑



花活動による取り組み組んだ内容は「学級花壇と学習園を全学級が持っています。春にはサルビアやタリヤなど、秋にはパンジーやテイジなどの花の種をまき、水やりや除草などの世話をしています。また、去年から始めた

「学級花壇と学習園を全学級が持っています。春にはサルビアやタリヤなど、秋にはパンジーやテイジなどの花の種をまき、水やりや除草などの世話をしています。また、去年から始めた

古谷 トヨ

産業祭わきたつ中を祝餅つく杵音に心はずむも

中本 幸枝

秋晴れにコンバインにて稲こげば孫二人畑にいま唄りて待つ

松尾 君代

森林の如く造ると庭師言ふその林道を植てたきぬ

平海 アサノ

若き日のクラスなかまを指折りて共に老いたる八十路の友よ

藤重 アヤ子

高台に登ればチェンソウの音ひびき木を伐り倒す人の影あり

藤重 幾代

鉄橋の工事に水の濁る川投げたパンに家鴨寄り来る

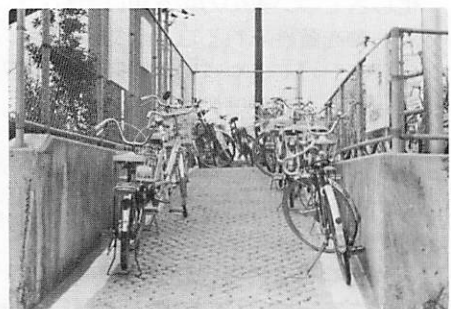
まちの伝言板

自転車は正しく
きちんと並べて

阿知須駅横の自転車置き場の自転車車が乱雑に置いてあるため、国鉄利用者や駅周辺を通る人たちが困っています。

調べてみると、列車の発車時刻ギリギリに駅に来て、乗り捨てようとする格好で自転車を自転車置き場に置くためのようです。美観を損ね、交通安全や防犯上の問題もあります。

自転車にカギをかけて、正し



▶後に来た人は自転車はどこに置けばよいのでしょうか？

くきちんと並べるよう、利用者一人ひとりのご協力をよろしくお願い致します。

善意はここに

〈町社会福祉協議会へ〉

◇香典返し▽藤本秀明さん(福岡市)は父一男さんの▽石井勇さん(縄北)は父貞雄さんの▽林一壽さん(築地)は父壽雄さん

んの▽山本憲一さん(飛石)は父浮藏さんの▽中村徳男さん(赤迫)は妻シマ子さんの▽松本ま子さん(旦北)は夫逸平さんの▽中村余作さん(砂三)は母ユキさんの
◇篤志▽藤井竹松さん(門松)▽民生児童委員一同▽匿名氏
回

濱野泰宏 長男 卓也 10・20 砂二

死亡(二冥福を祈ります)

氏名 死亡月日 年齢 住所

中村ユキ 10・27 86 砂三

松本逸平 10・31 38 旦北

岩井碩人 11・10 60 砂三

(十一月二十五日受付分まで)

よるなみ

(届出順)

出生(おすこやかに)

親の名 続柄子の名 月日 住所

岡村新二男 洋 10・20 飛石

田邊文雄二男 晴吾 11・5 岩西

兼重克己二男 拓朗 10・27 杖川



12 月 の メ モ

- 9 日 健康相談(役、前 9 時半)育児相談(役、後 1 時半)
- 14 日 町内駅伝競争
- 16 日 婦人学級(公、前 9 時半)交通事故相談・心配ごと相談(公、前10時) 1 歳 6 か月児健康診査(役、後 1 時)
- 18 日 三種混合(役、後 1 時半)
- 21 日 本読み会(公、前10時)
- 27 日 役場御用納
(役=役場、公=公民館)

今 月 の 納 税 ～ 12 月 ～

- 固定資産税
- 国民健康保険税
納期限は12月25日(木)までです。

人の動き(国勢調査との比較)

住 民 登 録		国 勢 調 査	
(昭和61年11月30日現在)		(昭和60年10月1日)	
8,346人……………	人	口……………	8,407人
3,895人……………	男	性……………	3,866人
4,451人……………	女	性……………	4,541人
2,279世帯……………	世帯数	……………	2,334世帯
11月分の人の動き			
出 生……………	5 人	転 入……………	15人
死 亡……………	1人	転 出……………	23人

通商産業省では、昭和六十一年の「工業統計調査」と「石油消費構造統計調査」を十二月三十一日現在で行います。調査の対象となる製造業を営む事業所には、年末から年始にかけて調査員がお伺いし、調査票に記入された内容は統計以外の目的に使用されることは決してありません。安心してご協力くださるようお願いいたします。

ご協力
ください

昭和六十一年工業統計調査
石油等消費構造統計調査



年末のごみは30日までに
年末はごみが大量に出ますが、各集積場へ出す場合は十二月三十日(火)の午前七時半までに、清掃センターへの持ち込みは午後二時までお願いいたします。
来年は一月五日から収集を
始めます。

くみとりは15日まで受け付け
年末のし尿くみとりの申し込みを十五日(月)まで受け付けます。希望者は、公益社(電話二三五〇番)へ直接お申し込みください。
なお来年は一月五日(月)から受け付けます。

ぼくの学校 わたしの学校

- 12 月
- 阿知須小学校
- 23 日 保護者会
 - 24 日 終業式
- 井関小学校
- 13 日 ふるさと学習
 - 23 日 保護者会
 - 24 日 終業式
- 阿知須中学校
- 5～8 日 期末テスト
 - 13 日 校内マラソン大会・生徒会役員選挙
 - 20 日 生徒総会
 - 22 日 保護者会
 - 24 日 終業式

"心のスキ"が狙われます

▶年末の犯罪に遭わないために◀

「今年中にこれだけは済ませておきたい」「△△の料金は今年中に支払わなければ…」
年の瀬は、これもしなければ、あれもしなければと、なにかとあわただしくなります。忙しさでつい家のカギを掛け忘れたり、大切なものを置き忘れるなど、ちょっとした「心のスキ」がでやすいこの時期は、空き巣やスリにとって絶好の稼ぎ時です。
ドロボーは、あなたのちょっとした気のゆるみを狙っています。年末に空き巣やスリなどの被害に遭わないために、次のことがらを心がけましょう。
①外出するときは、たとえわずかな時間でもカギを掛ける。また、隣り近所に一声かけて

- 留守を頼むことも忘れずに。
- ②多額の現金は、なるべく手元に置かないように。通帳と印鑑は別々に保管を。
 - ③混雑する場所へ行くときは、必要以上の現金を持ち歩かない。
 - ④大金を持ち歩くときは、複数で行動するなど細心の注意を払う。
 - ⑤車や自転車を駐車するときは、必ずカギを掛けるように。車の中には現金など大切なものを置かない。

